

5. 経済学部

| | | |
|------------------|-------|------|
| (1) 経済学部の教育目的と特徴 | | 5-2 |
| (2) 「教育の水準」の分析 | | 5-3 |
| 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 | | 5-3 |
| 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 | | 5-9 |
| 【参考】データ分析集 指標一覧 | | 5-11 |

富山大学経済学部

(1) 経済学部の教育目的と特徴

1. 経済学部の教育目的

- ① 富山大学経済学部は昭和 28 年に設置され、経済学科、経営学科、経営法学科の 3 学科にそれぞれ昼間主では 120 名、100 名、85 名、夜間主では、10 名、10 名、10 名の入学定員を擁する社会科学系総合学部である。それぞれの学士課程卒業者に対して学士（経済学）、学士（経営学）、学士（法学）の学位を授与している。学科における教育研究目的は、次のとおりとする。
 - ② 経済学科、経営学科、経営法学科において、それぞれ教育目的を定めている。

経済学科においては、経済社会をとりまく諸問題についての優れた理解力と判断力を備え、広く社会の要請に応えることのできる人材の育成を目的としている。

経営学科においては、戦略的な思考、創造的なアイデアや適切な意思決定及び問題を発見・分析・解決できるビジネス・パーソンの育成を目的としている。

経営法学科においては、リーガル・マインドと経済・経営の知識とを併せ持ったバランス感覚あふれる社会人・職業人の育成を目的としている。

2. 経済学部の特徴

- ① 社会科学系総合学部の強みを生かした横断的教育
本学部は、経済学科、経営学科、経営法学科の 3 学科から構成され、さらに、各学科の専門性を高めるのみならず、学科の枠を超えて学ぶ履修コース制を昼間主コースに導入し、「広い視野を備えた主体性と創造性に富む」人材を育成している。
- ② グローバル人材の育成
本学部では、アジア諸国を中心として大学間、学部間の交流協定を締結することによって学生の留学機会を確保し、「創造性に富む人材」を育成している。また、国際的に通用する人材の育成を目指して、英語による専門科目の授業を提供している。
- ③ 地域社会との連携
「広い視野を備えた主体性と創造性に富む人材の育成」を以て地域や国際社会に貢献するため、外部の社会人講師による講義、銀行や証券会社による寄附講義、インターンシップによる就業（体験）教育、キャリア教育を導入している。
- ④ 夜間主教育
昭和 61 年 4 月に旧富山大学経営短期大学部を引き継ぎ、経済学科、経営学科、経営法学科の 3 学科から構成される北陸地方唯一の夜間主コースを設置している。夜間主コースでは、昼間に学ぶことが困難な学生のために、社会人特別入試を中心として学生を受け入れるとともに、各学科の基礎科目や専門科目を限られた時間で無理なく学べるよう教育課程を編成している。
- ⑤ 多様な人材の受入れ
本学部は、「個人を尊重する共生の精神」を踏まえ、一般選抜の他、普通科や専門学科からの推薦入学、私費外国人留学生選抜、第 3 年次編入学等により多様な学生を受け入れている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された学位授与方針（別添資料 3705-i1-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された教育課程方針（別添資料 3705-i1-1（再掲）、3705-i1-2（再掲））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・体系性が確認できる資料（別添資料 3705-i3-1～3）
- ・自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 3705-i3-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部はより密度の高い学修と柔軟な学修計画を両立させるため、平成30年度入学者から専門科目において従来のセメスター制をクォーター制に移行させた。クォーター制の導入により学修成果を適時的に確認することが可能となり、学生がインターンシップやボランティア活動、留学等に参加しやすくなる環境を整備した。

その結果、インターンシップの件数が平成28年度128件、平成29年度122件、平成30年度165件、令和元年度189件とクォーター制の導入により大きく増加している。

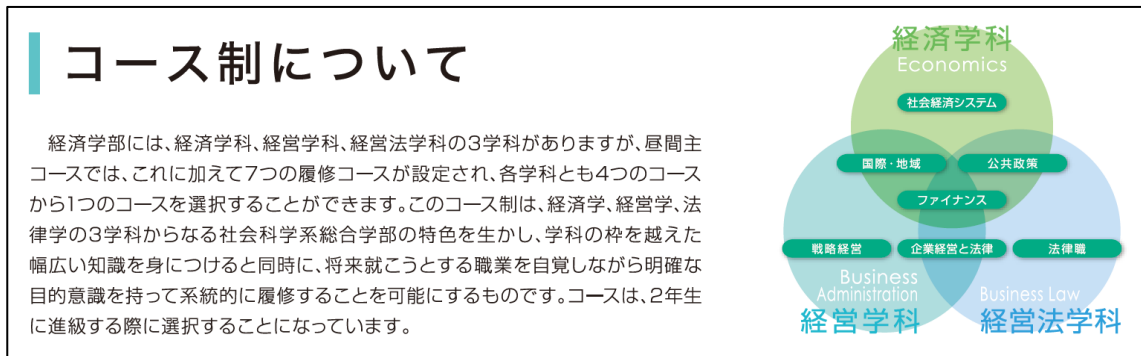
また、夜間主コースの学生にとっては、勤務の都合に合わせた柔軟な学修計画を立てることが可能となった（別添資料 3705-i3-5）。[3.0]

- 平成30年度から、1年次において大学での学修に必要な知識やスキル、大学生に求められる常識や生活態度などを身に付けるための科目「初年次教育」を導入し、社会科学の諸分野を体系的に学ぶための経済、経営、法律分野の導入科目（各2科目）と合わせ、必修基礎科目（計14単位）として構成している。昼間主コースの学生は、必修基礎科目で得た知識を基に、2年次から各自の将来の進路や関心に沿っ

富山大学経済学部 教育活動の状況

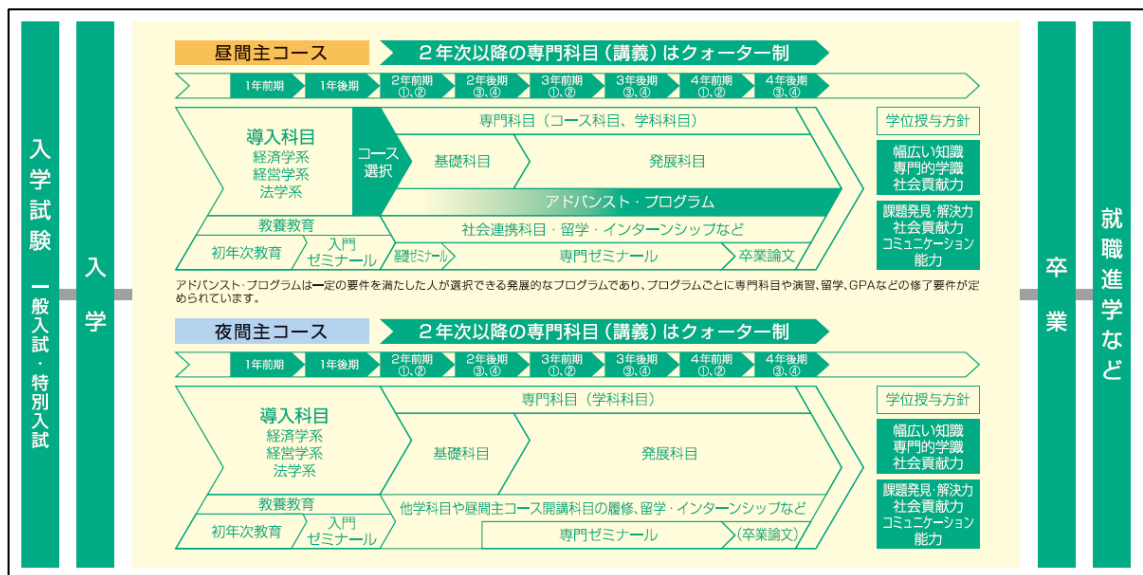
て7つの履修コースのうち1つに所属することとしている（下図、参照）。各学科には所属学科の学問領域を集中して学ぶコース（1コース）と、他学科の科目も含めて体系的に学ぶ分野横断的なコース（3コース）があり、高度な専門性のみならず広い視野を兼ね揃えた知識の修得を可能とする体制を構築している。平成30年度入学者は、313名中122名が学科横断的なコースを選択した。[3.1]

図：コース一覧



- 平成30年度から、高度な知識とスキルを身に着けたい学生を対象に、新たにアドバンスト・プログラムを開設した。アドバンスト・プログラムは、「国際ビジネス」、「金融・財務」、「行政マネジメント」の3つのプログラムから成り、修了要件として国際交流協定校での単位取得（留学）や、専門科目のGPAが一定水準以上であることを課している。留学や課題解決型の演習、社会連携型の実践的な講義の履修を通じて、将来の進路を意識しつつ、課題発見・解決・提案力やコミュニケーション能力を養成することとしており、令和元年度は2名の履修者があった。[3.1]

図：アドバンスト・プログラム



<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 3705-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 3705-i4-2～3）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3705-i4-4）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 3705-i4-5）
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学部の教育研究上の目的に沿って、国際性や共生の精神を育むため、第2期中期目標期間から引き続き、海外の大学で研究成果を発表するゼミに学部長裁量経費による支援を行っている。学部長のガバナンスにより、戦略的に支援している。[4.1]
- 夜間主コースでは、2年次以降の専門的な学修に必要なスキルを身に付けるため、平成30年度から「入門ゼミ」を導入し、原則全学生が履修する体制とした。[4.2]

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3705-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3705-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3705-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3705-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- GPAにより、学習成果を可視化するとともに、オリエンテーション等を通じてカリキュラムの体系性やCAP制及びGPAの趣旨を学生に十分に説明することにより、明確な目的意識をもった授業履修や授業時間外の学習の重要性を周知している。また、1年次に「入門ゼミナール」を必ず履修するように指導し、入学者全員に指導教員を配置している。[5.1]
- 1年次から2年次前学期までは、入門ゼミナールの指導教員が指導、2年次後学期は「基礎ゼミナール」の指導教員が指導、3年次から4年次までは、「専門ゼミナール」の指導教員が週2回開講するゼミで指導を実施している。そのほかに定期的（年1回）に学生の単位修得状況等を把握するなど、人社系学務課（経済事務室）等とも連携し、問題の早期発見、問題解決に努めている。

1年次については、入門ゼミナール担当教員が平均13名程度の学生の指導教員

富山大学経済学部 教育活動の状況

となり、前学期・後学期開始時に学生と面談している。2～4年生については、基礎セミナー・専門ゼミナール担当教員が定期的に個々の学生の修学状況を確認し、適宜、指導を行っている。これらにより、退学者・除籍者数については平成28年度27名、平成29年度25名、平成30年度22名、令和元年度16名と、減少傾向にある（指標番号15（データ分析集））。[5.2]

- 平成28年度から、学生生活支援の経験豊富な教授を「学生生活コーディネーター」に任命し、問題を抱える学生との個別面談や相談を行っている。

また令和2年度から、経済学部には学生の修学・学生生活上の悩み相談に応じ、指導・助言を行う専任の学生支援コーディネーターを配置することを決定した。[5.3]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 3705-i6-1～4）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 3705-i6-5）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3705-i6-6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 令和元年度から新たに、経済学部教務委員会が全学部生の単位取得状況を青、黄、赤に色分けし各指導教員に配布することとし、単位取得状況面からの学生指導等に役立っている（別添資料 3705-i6-7）。[6.1]

- 本学部では、シラバスに成績評価基準を明記しており、その基準に沿った厳格な成績評価を実施している。学修目標の効果的な達成の促進及び教育の質保証の観点から、本学部では令和元年度前学期より学部の成績評価分布の目標を設定し、成績分布状況の組織的な事後チェックを行っている（別添資料 3705-i6-1～5（再掲））。[6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 3705-i6-2（再掲））
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 3705-i7-1、3705-i7-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目 8 学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- ・学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3705-i1-1（再掲）、3705-i1-2（再掲））
- ・入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・入学定員充足率（別添資料 3705-i8-1）
- ・指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜選択記載項目 A 教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3705-i4-4（再掲））
- ・指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 30 年度から新たに、本学部と開南大学(台湾)との間でダブル・ディグリープログラムを開始した。同プログラムでは先方の大学での外国語による専門知識の修得のみに限らず、優れた語学力による自らの情報発信、異文化理解等の能力を兼ね備えた国際的な視野を持つ人材を養成している（別添資料 3701-iA-1）。[A. 1]
- 国際的に通用する人材の育成を目指して、本学部において TOEIC の団体テストを毎年 6 月と 12 月に実施し、学生の語学力の涵養と留学の促進を図っている。当該テストの受験動向や結果では、学内外の他の受験機会の増加に伴い受験者数は減少しているものの、テストの最高点もしくは平均点は向上している（別添資料 3701-iA-2）。[A. 1]
- 第3期中期目標期間中、新たに4部局と部局間交流協定を締結しており、上述したダブル・ディグリープログラムの新設、平成30年度からのクォーター制への移行など、留学先の増加や留学時期の多様化等、グローバル人材育成のための取組を行った結果、学生の主体的な学びの意欲向上につながり、短期派遣プログラム参加者数は平成28年度12名から令和元年度13名、交換留学生数が平成28年度3名から令和元年度7名に増加した。[A. 1]

＜選択記載項目 B 地域連携による教育活動／産官学連携＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

富山大学経済学部 教育活動の状況

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、学外の社会人による講義を公的機関や企業による寄附講義や外部講師による講義として教育課程に組み込んでいる。平成30年度からは、これらの科目に加えてキャリア形成のための科目やインターンシップなどを“社会連携科目”として位置づけ、専門科目で学ぶ理論や考え方が、実社会で活用されているありさまを体感できる事例を学修する機会を拡充した（別添資料3705-iB-1～2）。[B.1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 令和元年度に、本学部の教育内容・研究内容の改善を図り、今後の進むべき方向性等を明らかにするため、外部有識者により構成される「経済学部外部評価委員会」を設置し、経済学部の教育体制全般、教員の教育・研究の水準、卒業生についての評価と卒業生に今後求めるもの、地域連携・地域貢献の現状と課題等について評価を受けた。外部評価委員会の結果及び本学部等の対応については経済学部ホームページに掲載して、広く公表した上で令和2年度以降の学部及び大学院改革の指針とすることにした（別添資料3705-iC-1）。[C.2]

<選択記載項目D 高度専門職業人の育成>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料なし）
- ・指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3705-ii1-1）
- ・「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 3705-ii1-1（再掲））
- ・指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、「社会調査士」資格取得に必要な科目の設置機関に認定されており、本学部で開講されている所定の科目単位取得の上、所定の手続きを踏むと、社会調査士の資格が取得できるようになっている（別添資料 3705-ii1-2）。[1.2]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生の主体的な学習を促すために各自が参加するインターンシップと並行して第2期中期目標期間から引き続き、「人材開発とコミュニケーション」（寄附講義）や、本学アドミッションセンター講師による「キャリアデザイン論」を学部にて開講し、キャリア教育を強化している。

本学部は、入学当初から資格試験、就職・進学などについてゼミの指導教員や就職指導の担当教員に進路相談をすることができる体制を整えており、各学生のキャリア形成について、きめ細かいサポートを行っている。

以上の取組を継続的に実施してきた結果、平成28年度96.9%、平成29年度98.4%、平成30年度98.7%、令和元年度98.4%と就職率は高い水準での増加につながっている。なお、就職先としては、製造業、金融・保険業、卸・小売業、公務、各種サービス業などと多岐にわたっている。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3705-iiA-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、卒業直前の学生を対象に大学での学習の成果についてアンケート調査を実施している。平成31年度3月卒業生へのアンケート集計結果によると、大学での学習を通じて身についた5つの能力のうち、特に「創造力」、「責任感」、「コミュニケーション能力」については、「十分身につけることができた」、「ある程

富山大学経済学部 教育成果の状況

度身につけることができた」と回答した者は93.4%～86.1%と、いずれも高い水準となっている。また、本学部の教育課程編成上の特色である学科横断的な履修コース制に関して、「科目選択の助けになった」という項目で評価が高かった。[A.1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料なし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料3705-iiC-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 令和元年度に実施した企業アンケートによると、富山大学経済学部出身の社員は、「専門分野の知識」、「課題を発見する能力」、「課題について調査・分析・考察する能力」では、富山大学経済学部の卒業生と他大学の人文社会系卒業生と比較した結果、同程度以上との回答が85%以上と高い評価を受けている。[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

| 区分 | 指標 番号 | データ・指標 | 指標の計算式 |
|---------------------|----------|--------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 学生入学・在籍 状況データ | 1 | 女性学生の割合 | 女性学生数／学生数 |
| | 2 | 社会人学生の割合 | 社会人学生数／学生数 |
| | 3 | 留学生の割合 | 留学生数／学生数 |
| | 4 | 正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率 | 科目等履修生等数／学生数 |
| | 5 | 海外派遣率 | 海外派遣学生数／学生数 |
| | 6 | 受験者倍率 | 受験者数／募集人員 |
| | 7 | 入学定員充足率 | 入学者数／入学定員 |
| | 8 | 学部生に対する大学院生の比率 | 大学院生総数／学部学生総数 |
| 2. 教職員データ | 9 | 専任教員あたりの学生数 | 学生数／専任教員数 |
| | 10 | 専任教員に占める女性専任教員の割合 | 女性専任教員数／専任教員数 |
| | 11 | 本務教員あたりの研究員数 | 研究員数／本務教員数 |
| | 12 | 本務教員総数あたり職員総数 | 職員総数／本務教員総数 |
| | 13 | 本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別) | 職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数 |
| 3. 進級・卒業 データ | 14 | 留年率 | 留年者数／学生数 |
| | 15 | 退学率 | 退学者・除籍者数／学生数 |
| | 16 | 休学率 | 休学者数／学生数 |
| | 17 | 卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率 | 標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数 |
| | 18 | 卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率 | 標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数 |
| | 19 | 受験者数に対する資格取得率 | 合格者数／受験者数 |
| | 20 | 卒業・修了者数に対する資格取得率 | 合格者数／卒業・修了者数 |
| | 21 | 進学率 | 進学者数／卒業・修了者数 |
| | 22 | 卒業・修了者に占める就職者の割合 | 就職者数／卒業・修了者数 |
| 4. 卒業後の進路 データ | 23 | 職業別就職率 | 職業区分別就職者数／就職者数合計 |
| | 24 | 産業別就職率 | 産業区分別就職者数／就職者数合計 |

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。